



学校だより9月号

【学校教育目標】「力を合わせ 笑顔が光る日限の子」

令和3年 9月1日

横浜市立日限山小学校

〒233-0015

港南区日限山二丁目16番1

TEL 045(841)6561

「たくさんの方の支えがあったから」～選手の姿に思うこと～

校長 岡崎 陽子

厳しい暑さの残る中、学校が再開しました。13日（月）までは、各学級を二つに分けて1日おきの分散登校となります。新型コロナウイルスの感染状況がこれまでにない様相を見せる中での教育活動の再開です。今、学校としてできることは、感染予防策の徹底した実行と感染のリスクに配慮した教育活動の工夫です。しかし、今後の感染状況によっては、児童の安全を第一に考えた結果、行事の急な変更や中止をせざるを得ないことも予想されます。保護者の皆様・地域の皆様には、これまで以上にご理解とご協力をお願いすることが多くなると思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

さて、この夏は東京2020オリンピック・パラリンピックをテレビで観戦した方も多かったのではないのでしょうか。緊急事態宣言下での開催については様々な意見があったとはいえ、私は、選手の活躍する姿、懸命な姿にたくさんの方の感動を覚えました。

特に私が印象に残ったことは、競技を終えた選手たちの言葉です。多くの選手がまず、コロナ禍の中でオリンピック・パラリンピックの舞台を用意してくださったことに感謝していました。そして「自分がこの舞台に立てたのは、たくさんの方の支えがあったからです。自分一人では、ここまでくることはできませんでした。」と言って、家族のサポート、監督・コーチのアドバイス、チームメイトの協力…などに対して、感謝の思いを語っていました。

選手が競技を始めたきっかけは、様々だと思いますが、その競技の魅力に触れる機会があって、それ続ける中でその競技を好きになっていったのだと思います。「好きこそものの上手なれ」という言葉がありますが、好きなことは夢中になってやるので、それだけ上手になります。上手になると楽しくなって、ますます好きになります。目指すものも自ずと高くなっていきます。

でも、競技を長く続けていると、うまくいかないことや壁にぶつかることもたくさんあります。それを一つ一つ乗り越えることができたのは、もちろん選手自身の強い気持ちがあったからですが、それだけでなく、選手を支え続けた家族、監督・コーチ、チームメイト、その他多くの人々の支えがあったからでした。どの選手もそのことを強く感じているからこそ、自分を支えてくれた人たちへ心から感謝の思いを語っていました。聞いていて胸が熱くなりました。

子どもたちにも、夢中になれる好きなことを見つけてほしいと願っています。コロナ禍ではありますが、むしろこういう時だからこそ、自分なりに工夫して好きなことに取り組む時間をつくってほしいと思います。好きなことはスポーツに限りません。好きなことは一つに決める必要もありません。様々なことが、子どもにとっては好きなことになり得ます。私たち大人は、子どもの好きなことを決めつけたり、否定したりするのではなく、「好き」という気持ちに寄り添い、支えていきたいと思います。

今夏のオリンピック・パラリンピックを通して、人が人を支える力の強さと尊さを感じました。日々の生活の中でも、支え・支えられていることを実感しながら生きていきたいです。